



AutoSupportを使用する StorageGRID software

NetApp
December 03, 2025

目次

AutoSupportを使用する	1
AutoSupportとは何ですか?	1
Active IQとは何ですか?	1
AutoSupportパッケージに含まれる情報	1
AutoSupportを構成する	5
AutoSupportパッケージのプロトコルを指定します	6
毎週のAutoSupportを無効にする	6
イベントトリガーのAutoSupportを無効にする	7
オンデマンドでAutoSupportを有効にする	7
ソフトウェアアップデートのチェックを無効にする	7
追加のAutoSupport宛先を追加する	8
アプライアンスのAutoSupportを構成する	9
AutoSupportパッケージを手動でトリガーする	9
AutoSupportパッケージのトラブルシューティング	10
毎週のAutoSupportパッケージの失敗	10
ユーザーまたはイベントによってトリガーされたAutoSupportパッケージの障害	10
AutoSupportパッケージの障害を修正する	11
EシリーズAutoSupportパッケージをStorageGRID経由で送信する	11

AutoSupportを使用する

AutoSupportとは何ですか？

AutoSupport機能により、StorageGRID はヘルスおよびステータス パッケージをNetAppテクニカル サポートに送信できるようになります。

AutoSupportを使用すると、問題の特定と解決が大幅に高速化されます。テクニカル サポートでは、システムのストレージのニーズを監視し、新しいノードまたはサイトを追加する必要があるかどうかを判断するお手伝いもいたします。オプションで、AutoSupportパッケージを1つの追加の送信先に送信するように設定できます。

StorageGRID には 2 種類のAutoSupportがあります。

- * StorageGRID AutoSupport* は、StorageGRIDソフトウェアの問題を報告します。StorageGRIDを初めてインストールすると、デフォルトで有効になります。あなたはできる["デフォルトのAutoSupport設定を変更する"](#)必要であれば。



StorageGRID AutoSupportが有効になっていない場合、Grid Manager ダッシュボードにメッセージが表示されます。メッセージには、AutoSupport構成ページへのリンクが含まれています。メッセージを閉じると、AutoSupport が無効のままであっても、ブラウザのキャッシュがクリアされるまでメッセージは再び表示されません。

- アプライアンス ハードウェア**AutoSupport** は、StorageGRIDアプライアンスの問題を報告します。絶対です["各アプライアンスでハードウェアAutoSupportを構成する"](#)。

Active IQとは何ですか？

Active IQは、NetApp のインストールベースからの予測分析とコミュニティの知恵を活用するクラウドベースのデジタル アドバイザーです。継続的なリスク評価、予測アラート、規範的なガイダンス、自動化されたアクションにより、問題が発生する前に防止することができ、システムの健全性が向上し、システムの可用性が高まります。

NetAppサポート サイトでActive IQダッシュボードと機能を使用する場合は、AutoSupport を有効にする必要があります。

["Active IQDigital Advisorのドキュメント"](#)

AutoSupportパッケージに含まれる情報

AutoSupportパッケージには、次のファイルと詳細が含まれています。

ファイル名	フィールド	説明
AUTOSUPPORT-HISTORY.XML	AutoSupportシーケンス番号 + このAutoSupportの宛先 + 配信ステータス + 配信試行回数 + AutoSupport件名 + 配信URI + 最終エラー + AutoSupport PUTファイル名 + 生成時刻 + AutoSupport圧縮サイズ + AutoSupport解凍サイズ + 合計収集時間 (ミリ秒)	AutoSupport履歴ファイル。
AUTOSUPPORT.XML	ノード + サポートへの問い合わせプロトコル + HTTP/HTTPS のサポート URL + サポート アドレス + AutoSupport OnDemand の状態 + AutoSupport OnDemand サーバ URL + AutoSupport OnDemand のポーリング間隔	AutoSupportステータス ファイル。使用されているプロトコル、テクニカル サポートの URL とアドレス、ポーリング間隔、および OnDemand AutoSupport (有効または無効) の詳細を提供します。
バケット.XML	バケット ID + アカウント ID + ビルド バージョン + 場所制約設定 + コンプライアンス有効化 + コンプライアンス設定 + S3 オブジェクト ロック有効化 + S3 オブジェクト ロック設定 + 一貫性設定 + CORS 有効化 + CORS 設定 + 最終アクセス時刻有効化 + ポリシー有効化 + ポリシー設定 + 通知有効化 + 通知設定 + クラウド ミラー有効化 + クラウド ミラー設定 + 検索有効化 + 検索設定 + バケットタグ付け有効化 + バケットタグ付け設定 + バージョン設定	バケット レベルで構成の詳細と統計を提供します。バケット構成の例には、プラットフォーム サービス、コンプライアンス、バケットの一貫性などがあります。
グリッド構成.XML	属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	グリッド全体の構成情報ファイル。グリッド証明書、メタデータ予約領域、グリッド全体の構成設定 (コンプライアンス、S3オブジェクトロック、オブジェクト圧縮、アラート、syslog、ILM構成)、消失訂正コーディングプロファイルの詳細、DNS名、および"NMS name"。
GRID-SPEC.XML	グリッド仕様、生のXML	StorageGRID の構成と展開に使用されます。グリッド仕様、NTP サーバー IP、DNS サーバー IP、ネットワークポート、およびノードのハードウェア プロファイルが含まれます。

ファイル名	フィールド	説明
グリッドタスク.XML	ノード + サービスパス + 属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	グリッド タスク (保守手順) ステータス ファイル。グリッドのアクティブ、終了、完了、失敗、および保留中のタスクの詳細を提供します。
グリッド.JSON	グリッド + リビジョン + ソフトウェアバージョン + 説明 + ライセンス + パスワード + DNS + NTP + サイト + ノード	グリッド情報。
ILM-CONFIGURATION.XML	属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	ILM 構成の属性のリスト。
ILM-STATUS.XML	ノード + サービスパス + 属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	ILM メトリック情報ファイル。各ノードの ILM 評価レートとグリッド全体のメトリックが含まれます。
ILM.XML	ILM 生の XML	ILM アクティブ ポリシー ファイル。ストレージ プール ID、取り込み動作、フィルター、ルール、説明など、アクティブな ILM ポリシーに関する詳細が含まれます。
ログ.TGZ	該当なし	ダウンロード可能なログ ファイル。含む `bycast-err.log` そして `servermanager.log` 各ノードから。
マニフェスト.XML	収集順序 + このデータの AutoSupport コンテンツ ファイル名 + このデータ項目の説明 + 収集されたバイト数 + 収集にかかった時間 + このデータ項目のステータス + エラーの説明 + このデータの AutoSupport コンテンツタイプ	AutoSupport メタデータとすべての AutoSupport ファイルの簡単な説明が含まれています。
NMS-ENTITIES.XML	属性インデックス + エンティティOID + ノードID + デバイスモデルID + デバイスモデルバージョン + エンティティ名	グループおよびサービスエンティティ "NMS ツリー"。グリッド トポロジの詳細を提供します。ノードは、ノード上で実行されているサービスに基づいて決定できます。

ファイル名	フィールド	説明
オブジェクトステータス.XML	ノード + サービスパス + 属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	オブジェクトのステータス。バックグラウンド スキャンのステータス、アクティブな転送、転送速度、合計転送数、削除率、破損したフラグメント、失われたオブジェクト、不足しているオブジェクト、試行された修復、スキャン速度、推定スキャン期間、および修復完了ステータスが含まれます。
サーバステータス.XML	ノード + サービスパス + 属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	サーバー構成。各ノードについて、プラットフォームの種類、オペレーティング システム、インストールされているメモリ、使用可能なメモリ、ストレージの接続性、ストレージ アプライアンスのシャーシのシリアル番号、ストレージ コントローラの障害が発生したドライブの数、コンピューティング コントローラのシャーシの温度、コンピューティング ハードウェア、コンピューティング コントローラのシリアル番号、電源、ドライブ サイズ、およびドライブの種類の詳細が含まれます。
サービスステータス.XML	ノード + サービスパス + 属性ID + 属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	サービス ノード情報ファイル。割り当てられた表スペース、空き表スペース、データベースの Reaper メトリック、セグメント修復期間、修復ジョブ期間、自動ジョブ再起動、自動ジョブ終了などの詳細が含まれます。
ストレージグレード.XML	ストレージグレードID + ストレージグレード名 + ストレージノードID + ストレージノードパス	各ストレージ ノードのストレージ グレード定義ファイル。
サマリー属性.XML	グループOID + グループパス + サマリー属性ID + サマリー属性名 + 値 + インデックス + テーブルID + テーブル名	StorageGRID の使用状況情報を要約した高レベルのシステム ステータス データ。グリッド名、サイト名、グリッドおよびサイトあたりのストレージ ノードの数、ライセンスの種類、ライセンスの容量と使用状況、ソフトウェア サポート条件、S3 操作の詳細などの詳細を提供します。
システムアラート.XML	名前 + 重大度 + ノード名 + アラートステータス + サイト名 + アラート発生時刻 + アラート解決時刻 + ルールID + ノードID + サイトID + サイレンス + その他の注釈 + その他のラベル	StorageGRIDシステムの潜在的な問題を示す現在のシステム アラート。

ファイル名	フィールド	説明
ユーザーエージェント.XML	ユーザーエージェント + 日数 + 合計 HTTP リクエスト + 取り込まれた合計バイト数 + 取得された合計バイト数 + PUT リクエスト + GET リクエスト + DELETE リクエスト + HEAD リクエスト + POST リクエスト + OPTIONS リクエスト + 平均リクエスト時間 (ミリ秒) + 平均 PUT リクエスト時間 (ミリ秒) + 平均 GET リクエスト時間 (ミリ秒) + 平均 DELETE リクエスト時間 (ミリ秒) + 平均 HEAD リクエスト時間 (ミリ秒) + 平均 POST リクエスト時間 (ミリ秒) + 平均 OPTIONS リクエスト時間 (ミリ秒)	アプリケーション ユーザー エージェントに基づく統計。たとえば、ユーザーエージェントごとの PUT/GET/DELETE/HEAD 操作の数と各操作の合計バイト サイズなどです。
X-ヘッダーデータ	X-Netapp-asup-generated-on + X-Netapp-asup-hostname + X-Netapp-asup-os-version + X-Netapp-asup-serial-num + X-Netapp-asup-subject + X-Netapp-asup-system-id + X-Netapp-asup-model-name	AutoSupportヘッダー データ。

AutoSupportを構成する

デフォルトでは、StorageGRID を初めてインストールすると、StorageGRID AutoSupport機能が有効になります。ただし、各アプライアンスでハードウェアAutoSupportを構成する必要があります。必要に応じて、AutoSupport の設定を変更できます。

StorageGRID AutoSupportの設定を変更する場合は、プライマリ管理ノードでのみ変更を行ってください。絶対です**ハードウェアAutoSupportを構成する**各アプライアンスで。

開始する前に

- グリッドマネージャにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- あなたは"[ルートアクセス権限](#)"。
- AutoSupportパッケージの送信にHTTPSを使用する場合は、プライマリ管理ノードへのアウトバウンドインターネットアクセスを直接または"[プロキシサーバーを使用する](#)"(着信接続は必要ありません)。
- StorageGRID AutoSupportページでHTTPを選択した場合は、"[プロキシサーバーを設定しました](#)" AutoSupportパッケージを HTTPS として転送します。NetApp のAutoSupportサーバーは、HTTP を使用して送信されたパッケージを拒否します。
- AutoSupportパッケージのprotocolsとして SMTP を使用する場合は、SMTP メール サーバーを設定しま

す。

タスク概要

AutoSupportパッケージをテクニカル サポートに送信するには、次のオプションを任意に組み合わせて使用できます。

- 毎週: AutoSupportパッケージを週に 1 回自動的に送信します。デフォルト設定: 有効。
- イベント トリガー: 1 時間ごとに、または重要なシステム イベントが発生したときに、AutoSupportパッケージを自動的に送信します。デフォルト設定: 有効。
- オンデマンド: テクニカル サポートがStorageGRIDシステムにAutoSupportパッケージを自動的に送信するようリクエストできるようにします。これは、問題に積極的に取り組んでいる場合に役立ちます (HTTPS AutoSupport転送プロトコルが必要です)。デフォルト設定: 無効。
- ユーザートリガー: いつでもAutoSupportパッケージを手動で送信します。

AutoSupportパッケージのプロトコルを指定します

AutoSupportパッケージを送信するには、次のいずれかのプロトコルを使用できます。

- **HTTPS:** これは、新規インストールのデフォルトおよび推奨設定です。このプロトコルはポート 443 を使用します。あなたがしたい場合は[AutoSupport on Demand機能を有効にする](#)、HTTPS を使用する必要があります。
- **HTTP:** HTTP を選択した場合は、AutoSupportパッケージを HTTPS として転送するようにプロキシ サーバーを構成する必要があります。NetApp のAutoSupportサーバーは、HTTP を使用して送信されたパッケージを拒否します。このプロトコルはポート 80 を使用します。
- **SMTP:** AutoSupportパッケージを電子メールで送信する場合は、このオプションを使用します。

設定したプロトコルは、すべての種類のAutoSupportパッケージの送信に使用されます。

手順

1. サポート > ツール > * AutoSupport* > 設定 を選択します。
2. AutoSupportパッケージの送信に使用するプロトコルを選択します。
3. **HTTPS** を選択した場合は、テクニカル サポート サーバへの接続を保護するためにNetAppサポート証明書 (TLS 証明書) を使用するかどうかを選択します。
 - 証明書の検証 (デフォルト): AutoSupportパッケージの送信が安全であることを確認します。NetAppサポート証明書は、StorageGRIDソフトウェアとともにすでにインストールされています。
 - 証明書を検証しない: 証明書に一時的な問題がある場合など、証明書の検証を使用しない正当な理由がある場合にのみ、このオプションを選択します。
4. *保存*を選択します。すべての毎週、ユーザーによってトリガーされる、およびイベントによってトリガーされるパッケージは、選択したプロトコルを使用して送信されます。

毎週のAutoSupportを無効にする

デフォルトでは、StorageGRIDシステムは、AutoSupportパッケージを週に 1 回テクニカル サポートに送信するように設定されています。

毎週のAutoSupportパッケージがいつ送信されるかを決定するには、[* AutoSupport*] > [結果] タブに移動します。*Weekly AutoSupport*セクションで、*Next Scheduled Time*の値を確認します。

毎週のAutoSupportパッケージの自動送信はいつでも無効にできます。

手順

1. サポート > ツール > * AutoSupport* > 設定 を選択します。
2. *週次AutoSupportを有効にする*チェックボックスをオフにします。
3. *保存*を選択します。

イベントトリガーの**AutoSupport**を無効にする

デフォルトでは、StorageGRIDシステムは、AutoSupportパッケージを1時間ごとにテクニカル サポートに送信するように設定されています。

イベントトリガーAutoSupport はいつでも無効にすることができます。

手順

1. サポート > ツール > * AutoSupport* > 設定 を選択します。
2. イベントトリガー**AutoSupport**を有効にする チェックボックスをオフにします。
3. *保存*を選択します。

オンデマンドで**AutoSupport**を有効にする

AutoSupport on Demand は、テクニカル サポートが積極的に取り組んでいる問題の解決に役立ちます。

デフォルトでは、AutoSupport on Demand は無効になっています。この機能を有効にすると、テクニカル サポートはStorageGRIDシステムにAutoSupportパッケージを自動的に送信するよう要求できるようになります。テクニカル サポートでは、AutoSupport on Demand クエリのポーリング時間間隔を設定することもできます。

テクニカル サポートでは、AutoSupport on Demand を有効または無効にすることはできません。

手順

1. サポート > ツール > * AutoSupport* > 設定 を選択します。
2. プロトコルとして*HTTPS*を選択します。
3. *週次AutoSupportを有効にする*チェックボックスを選択します。
4. オンデマンドの**AutoSupport**を有効にする チェックボックスを選択します。
5. *保存*を選択します。

AutoSupport on Demand が有効になっており、テクニカル サポートはAutoSupport on Demand リクエストをStorageGRIDに送信できます。

ソフトウェアアップデートのチェックを無効にする

デフォルトでは、StorageGRID はNetAppに問い合わせ、システムでソフトウェア アップデートが利用可能かどうかを判断します。StorageGRID の修正プログラムまたは新しいバージョンが利用可能な場合は、StorageGRIDのアップグレード ページに新しいバージョンが表示されます。

必要に応じて、ソフトウェア更新のチェックを無効にすることもできます。たとえば、システムに WAN アクセスがない場合は、ダウンロード エラーを回避するためにチェックを無効にする必要があります。

手順

1. サポート > ツール > * AutoSupport* > 設定 を選択します。
2. *ソフトウェアの更新を確認する*チェックボックスをオフにします。
3. *保存*を選択します。

追加のAutoSupport宛先を追加する

AutoSupportを有効にすると、ヘルスおよびステータス パッケージがテクニカル サポートに送信されます。すべてのAutoSupportパッケージに対して 1 つの追加の宛先を指定できます。

AutoSupportパッケージの送信に使用するプロトコルを確認または変更するには、[AutoSupportパッケージのプロトコルを指定する](#)。



SMTP プロトコルを使用して、AutoSupportパッケージを追加の宛先に送信することはできません。

手順

1. サポート > ツール > * AutoSupport* > 設定 を選択します。
2. 追加の**AutoSupport**宛先を有効にする を選択します。
3. 以下を指定します。

ホスト名

追加のAutoSupport宛先サーバーのサーバー ホスト名または IP アドレス。



追加の目的地は 1 つだけ入力できます。

ポート

追加のAutoSupport宛先サーバーに接続するために使用されるポート。デフォルトは、HTTP の場合はポート 80、HTTPS の場合はポート 443 です。

証明書の検証

追加の宛先への接続を保護するために TLS 証明書が使用されるかどうか。

- 証明書検証を使用するには、[証明書の検証] を選択します。
- 証明書を検証せずにAutoSupportパッケージを送信するには、「証明書を検証しない」を選択します。

証明書に一時的な問題がある場合など、証明書の検証を使用しない正当な理由がある場合にのみ、この選択肢を選択してください。

4. *証明書の検証*を選択した場合は、次の操作を行います。
 - a. CA 証明書の場所を参照します。
 - b. CA 証明書ファイルをアップロードします。

CA 証明書のメタデータが表示されます。

5. *保存*を選択します。

今後、毎週、イベントによってトリガーされ、ユーザーによってトリガーされるすべてのAutoSupportパッケージは、追加の宛先に送信されます。

アプライアンスのAutoSupportを構成する

アプライアンスのAutoSupportはStorageGRIDハードウェアの問題を報告し、StorageGRID AutoSupportはStorageGRIDソフトウェアの問題を報告しますが、1つの例外として、SGF6112の場合、StorageGRID AutoSupportはハードウェアとソフトウェアの両方の問題を報告します。追加の構成を必要としないSGF6112を除く各アプライアンスでAutoSupportを構成する必要があります。AutoSupportは、サービスアプライアンスとストレージアプライアンスで異なる方法で実装されます。

SANtricityを使用して、各ストレージアプライアンスのAutoSupportを有効にします。アプライアンスの初期セットアップ時またはアプライアンスのインストール後に、SANtricity AutoSupportを設定できます。

- SG6000およびSG5700アプライアンスの場合、"[SANtricity System ManagerでAutoSupportを構成する](#)"

EシリーズアプライアンスからのAutoSupportパッケージは、プロキシによるAutoSupport配信を設定すると、StorageGRID AutoSupportに含めることができます。"[SANtricity System Manager](#)"。

StorageGRID AutoSupportは、DIMMやホストインターフェイスカード(HIC)の障害などのハードウェアの問題を報告しません。ただし、一部のコンポーネントの故障により、"[ハードウェアアラート](#)"。ベースボード管理コントローラ(BMC)を備えたStorageGRIDアプライアンスの場合、ハードウェア障害を報告するために電子メールとSNMPトラップを設定できます。

- "[BMCアラートのメール通知を設定する](#)"
- "[BMCのSNMP設定を構成する](#)"

関連情報

["NetAppサポート"](#)

AutoSupportパッケージを手動でトリガーする

StorageGRIDシステムの問題のトラブルシューティングでテクニカルサポートを支援するために、AutoSupportパッケージの送信を手動でトリガーできます。

開始する前に

- グリッドマネージャにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- ルートアクセスまたはその他のグリッド構成権限が必要です。

手順

1. サポート > ツール > *AutoSupport* を選択します。
2. *アクション*タブで、*ユーザーがトリガーしたAutoSupportの送信*を選択します。

StorageGRIDは、AutoSupportパッケージをNetAppサポートサイトに送信しようとします。試行が成功

すると、[結果] タブの [最新の結果] と [前回の成功時刻] の値が更新されます。問題がある場合は、「最新の結果」の値が「失敗」に更新され、StorageGRID はAutoSupportパッケージの再送信を試行しません。



ユーザーがトリガーしたAutoSupportパッケージを送信した後、1分後にブラウザでAutoSupportページを更新して、最新の結果にアクセスします。

AutoSupportパッケージのトラブルシューティング

AutoSupportパッケージの送信に失敗した場合、StorageGRIDシステムはAutoSupportパッケージの種類に応じて異なるアクションを実行します。**SUPPORT > Tools > * AutoSupport * > Results** を選択すると、AutoSupportパッケージのステータスを確認できます。

AutoSupportパッケージの送信に失敗した場合、* AutoSupport* ページの * 結果 * タブに「失敗」と表示されます。



AutoSupportパッケージをNetAppに転送するようにプロキシサーバーを設定した場合は、「[プロキシサーバーの構成設定が正しいことを確認する](#)」。

毎週のAutoSupportパッケージの失敗

毎週のAutoSupportパッケージの送信に失敗した場合、StorageGRIDシステムは次のアクションを実行します。

1. 「最新の結果」属性を「再試行」に更新します。
2. 1時間にわたって4分ごとに15回、AutoSupportパッケージの再送信を試行します。
3. 送信失敗が1時間続くと、最新の結果属性が失敗に更新されます。
4. 次のスケジュールされた時間にAutoSupportパッケージを再度送信しようとします。
5. NMS サービスが利用できないためにパッケージが失敗した場合、および7日が経過する前にパッケージが送信された場合は、通常のAutoSupportスケジュールを維持します。
6. NMS サービスが再び利用可能になったときに、パッケージが7日以上送信されていない場合は、AutoSupportパッケージを直ちに送信します。

ユーザーまたはイベントによってトリガーされたAutoSupportパッケージの障害

ユーザーがトリガーした、またはイベントがトリガーしたAutoSupportパッケージの送信に失敗した場合、StorageGRIDシステムは次のアクションを実行します。

1. エラーが既知の場合はエラーメッセージが表示されます。たとえば、ユーザーが正しい電子メール構成設定を指定せずにSMTPプロトコルを選択した場合、次のエラーが表示されます。AutoSupport packages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server page.
2. パッケージの再送信を試行しません。
3. エラーを記録する `nms.log`。

障害が発生し、選択されたプロトコルとして SMTP が使用されている場合は、StorageGRIDシステムの電子メール サーバーが正しく設定されており、電子メール サーバーが実行中であることを確認します (**SUPPORT** > アラーム (レガシー) > レガシー電子メール セットアップ)。AutoSupportページに次のエラー メッセージが表示される場合があります。AutoSupport packages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server page.

。"メールサーバーの設定を構成する"。

AutoSupportパッケージの障害を修正する

障害が発生し、選択されたプロトコルが SMTP である場合は、StorageGRIDシステムの電子メール サーバーが正しく構成され、電子メール サーバーが実行中であることを確認してください。AutoSupportページに次のエラー メッセージが表示される場合があります。AutoSupport packages cannot be sent using SMTP protocol due to incorrect settings on the E-mail Server page.

EシリーズAutoSupportパッケージをStorageGRID経由で送信する

E シリーズSANtricity System Manager AutoSupportパッケージは、ストレージ アプライアンス管理ポートではなく、StorageGRID管理ノードを介してテクニカル サポートに送信できます。

見る "[EシリーズハードウェアAutoSupport](#)" E シリーズ アプライアンスでAutoSupportを使用する方法の詳細については、こちらをご覧ください。

開始する前に

- グリッドマネージャにサインインするには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
- あなたは"[ストレージアプライアンス管理者またはルートアクセス権限](#)"。
- SANtricity AutoSupportを設定しました:
 - SG6000およびSG5700アプライアンスの場合、"[SANtricity System ManagerでAutoSupportを構成する](#)"



Grid Manager を使用してSANtricity System Manager にアクセスするには、SANtricityファームウェア 8.70 以上が必要です。

タスク概要

E シリーズのAutoSupportパッケージには、ストレージ ハードウェアの詳細が含まれており、StorageGRIDシステムから送信される他のAAutoSupportパッケージよりも具体的です。

SANtricity System Manager で特別なプロキシ サーバ アドレスを設定すると、アプライアンスの管理ポートを使用せずに、StorageGRID管理ノードを介してAutoSupportパッケージを転送できます。この方法で送信されるAutoSupportパッケージは、"[優先送信者管理ノード](#)"、そして彼らはどんな"[管理者プロキシ設定](#)"グリッドマネージャで構成されているもの。

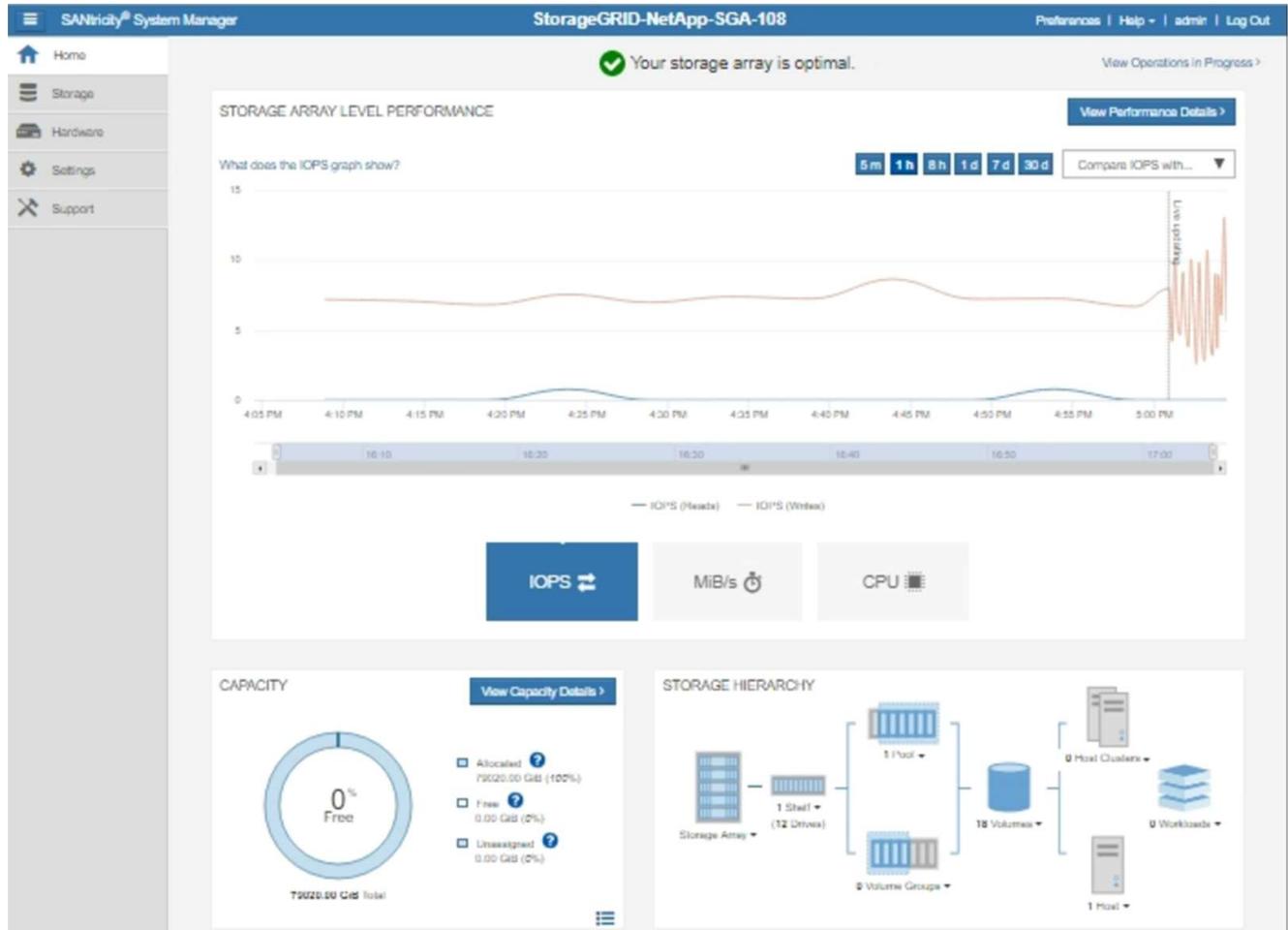


この手順は、E シリーズAutoSupportパッケージ用のStorageGRIDプロキシ サーバを構成するためのものです。EシリーズのAutoSupport設定の詳細については、"[NetApp EシリーズおよびSANtricityのドキュメント](#)"。

手順

1. グリッド マネージャーで、**NODES** を選択します。
2. 左側のノード リストから、構成するストレージ アプライアンス ノードを選択します。
3. * SANtricity System Manager* を選択します。

SANtricity System Manager のホームページが表示されます。



4. サポート > サポート センター > * AutoSupport* を選択します。

AutoSupport操作ページが表示されます。

Support Resources

Diagnostics

AutoSupport

AutoSupport operations

AutoSupport status: Enabled 

[Enable/Disable AutoSupport Features](#)

AutoSupport proactively monitors the health of your storage array and automatically sends support data ("dispatches") to the support team.

[Configure AutoSupport Delivery Method](#)

Connect to the support team via HTTPS, HTTP or Mail (SMTP) server delivery methods.

[Schedule AutoSupport Dispatches](#)

AutoSupport dispatches are sent daily at 03:06 PM UTC and weekly at 07:39 AM UTC on Thursday.

[Send AutoSupport Dispatch](#)

Automatically sends the support team a dispatch to troubleshoot system issues without waiting for periodic dispatches.

[View AutoSupport Log](#)

The AutoSupport log provides information about status, dispatch history, and errors encountered during delivery of AutoSupport dispatches.

[Enable AutoSupport Maintenance Window](#)

Enable AutoSupport Maintenance window to allow maintenance activities to be performed on the storage array without generating support cases.

[Disable AutoSupport Maintenance Window](#)

Disable AutoSupport Maintenance window to allow the storage array to generate support cases on component failures and other destructive actions.

5. * AutoSupport配信方法の設定*を選択します。

AutoSupport配信方法の設定ページが表示されます。

Configure AutoSupport Delivery Method

Select AutoSupport dispatch delivery method...

HTTPS

HTTP

Email

HTTPS delivery settings Show destination address

Connect to support team...

Directly ?

via Proxy server ?

Host address ?

tunnel-host

Port number ?

10225

My proxy server requires authentication

via Proxy auto-configuration script (PAC) ?

Save Test Configuration Cancel

6. 配信方法として*HTTPS*を選択します。



HTTPS を有効にする証明書が事前にインストールされています。

7. *プロキシサーバー経由*を選択します。

8. 入力 tunnel-hostホストアドレス です。

`tunnel-host`管理ノードを使用して E シリーズAutoSupportパッケージを送信するための特別なアドレスです。

9. 入力 10225ポート番号 です。

`10225`アプライアンス内の E シリーズ コントローラからAutoSupportパッケージを受信するStorageGRIDプロキシ サーバ上のポート番号です。

10. AutoSupportプロキシ サーバーのルーティングと構成をテストするには、「構成のテスト」を選択します。

正しい場合は、緑色のバナーに「AutoSupport構成が検証されました。」というメッセージが表示されます。

テストが失敗すると、赤いバナーにエラーメッセージが表示されます。StorageGRIDのDNS設定とネットワークを確認し、["優先送信者管理ノード" NetAppサポート サイト](#)に接続して、再度テストを実行できます。

11. *保存*を選択します。

設定が保存され、「AutoSupport配信方法が設定されました」という確認メッセージが表示されます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。